

**新型コロナウイルス情報
(令和5年2月10日現在)**

今後の新型コロナウイルスワクチン接種について、2月8日に国から方針が示されました。3月上旬までに最終的な結論が出る見込みです。

令和5年度の接種の方針

- ▼対象者 すべての方
- ▼接種スケジュール 秋～冬に追加接種
- ▼使用ワクチン オミクロン株（2価）ワクチン（ただし、新ワクチンもありうる）

**3月1日から
医療法人徳洲会湘南大磯病院が
スタートします**

徳洲会湘南大磯病院は、3月1日から東海大学医学部付属大磯病院を引き継ぎます。

○診療録（カルテ）

引き継がれます。

○診療券

番号は継続で、新しいカードに順次切り替え手続き中です。



○診療科目

現在、調整中です。

曜日や担当医師については、病院のホームページを確認してください。
<https://oisoth.jp>



○土曜日の診療

毎週土曜日は、午前中診療があります。

○夜間一次救急

平日及び休日の17時から22時の間に受診が必要となった場合は、引き続き対応できます。電話番号は、旧大磯病院と同じ（72）3211です。

3月は自殺対策強化月間

自殺は個人の問題や責任ではなく、過労、育児や介護疲れ、いじめや孤立等、様々な要因が複雑に関係して、心理的、社会的に追い込まれた末の死と言えます。

身近な人や相談窓口に悩みを伝えたり、身近な人がいつもと違う自殺の危険なサインに気づけたりすることが、自殺を踏みとどまるための大切な要素となります。

町では3月中に公共施設等へのぼり旗を設置し、公共車両にシートを付けて走り自殺予防の啓発を行います。

大切な人の「こころの声」に耳を傾け、社会全体で『誰も自殺に追い込まれることのない社会』をめざしましょう。



こんにちは

保健師です

「もしバナゲーム」の体験から

数年前、70歳くらいの男性からお電話がありました。「知人が事故で意識不明の重体になったことをきっかけに、生死の境目で自分の意思が伝えられなくなったかどうかしたらよいのか心配になった」というものでした。

私自身も還暦で実母は90代です。「死」について無関心ではありませんが、具体的にはなかなか切り出すことができません。過剰な延命治療はしたくない、痛みや辛いことは取り除いてもらいたいと思うくらいでした。

そんな折、「もしバナゲーム」を知りました。これは、亀田総合病院の緩和ケアを担当する蔵本浩一医師らによって作られたカードゲームで、友人や家族にあなたの願いを伝え、理解を深めるためのものです。勝ち負けはなく、話したいことだけを話せばよく、そのことで何か責められることはありません。

何人かでカードをめくりながら、「もし余命があと半年だったら、なにを大切にしたいか」を考えながら自分の優先順位でカードを選んでその理由を話し

ます。

カードには、「家族と一緒に過ごす」「人との温かいつながりがある」「祈る」や医療に関して「機器につながれていない」「私が望む形で治療やケアをしてもらえる」など35枚。

ご一緒した70代のご夫婦は、ご主人が「ユーモアを持ち続ける」を選んで、関西人やからと奥様は「誰かの役に立つ」を選び今までも家族や地域でしてきたように最後まで続けたいと。私が選んだカードは、「怖いと思うことについて話せる」でした。死について考えることは正直少し怖いですが。

実際に生や死について話して合ってみると、そのとらえ方や価値観は様々なのだなと思えました。

母親とはまだこのゲームをしていませんが、近いうちにやってみたいと思っています。元気づなうちから「もしも」を考えたり話したりすることで、当たり前前の日常が少し新鮮に感じられ、今をより大切に生きようと思えました。まず、自分のことを理解して、相手を思いやることのできたら、素晴らしいですね。

問 スポーツ健康課
☎内線347



問 スポーツ健康課
☎内線307

問 スポーツ健康課
☎内線360

問 スポーツ健康課
☎内線309